

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産事業費 項：農業費 目：植物防疫費

## 事業名 病虫害総合管理技術推進対策費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 クリーン係 電話番号：058-272-1111 (内 2868)

E-mail：[c11423@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11423@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 4,147 千円 (前年度予算額：4,420 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,420	1,031	0	0	0	0	2,557	0	832
要求額	4,147	895	0	0	0	0	2,557	0	695
決定額									

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・ 化学合成農薬の適正使用と代替技術体系を組み合わせた総合的病虫害管理技術 (IPM) の開発、体系化を図り、より安全・安心な農産物生産技術の確立が求められている。
- ・ 国内において、侵入を警戒すべき病虫害の検疫体制を敷いている。
- ・ 植物防疫法において検疫有害動植物に指定されているウメ輪紋ウイルス (PPV) の感染樹が県内で確認されており、感染樹及び周辺樹を調査する必要がある。
- ・ 地域で問題となっている病虫害、雑草等の課題解決が求められる。

### (2) 事業内容

#### ア 病虫害総合管理技術推進対策事業 (1,390 千円)

- ・ 県内の主要品目において、病原菌の薬剤感受性検定、発病軽減技術の開発、防除効果等の検討等により、化学合成農薬の適正使用及び削減した効果的な防除技術を確立する。

#### イ ウメ輪紋ウイルス緊急防除対策 (200 千円)

ウメ輪紋ウイルス感染樹及び周辺樹を調査し、当病のまん延を防止する。

#### ウ 植物防疫推進事業 (2,557 千円)

- ・ 新規登録農薬を中心に、効果、薬害、使用技術等を確認する。
- ・ 航空機防除に係る連絡会議の運営や、農薬危害防止等を指導する。

### (3) 県負担・補助率の考え方

＜消費・安全対策交付金＞

- ・ 病害虫総合管理技術推進対策事業 国 1/2、県 1/2
- ・ ウメ輪紋ウイルス緊急防除対策 国 10/10

＜その他（委託料収入）＞

- ・ 植物防疫推進事業 委託料収入 10/10

### (4) 類似事業の有無 なし

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
病害虫総合管理 技術推進対策費 (補助職員)	287	試験研究補助事務人件費
病害虫総合管理 技術推進対策費 (補助職員旅費)	11	試験研究補助事務員通勤費
旅費	397	現地調査、検討会等
需用費	2,265	調査用資材、事務消耗品、公用車燃料、調査報告書印刷等
役務費	333	郵便料、電話料、病害虫情報ネットワーク加入料
使用料	104	検討会会場使用料
その他	750	調査ほ場補償
合計	4,147	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

植物防疫法第 29 条（都道府県の行う防疫）

### (2) 国・他県の状況

ウメ輪紋ウイルスの調査は、植物防疫法に基づき、各都道府県で実施。

# 事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

化学合成農薬の適正使用により、薬剤抵抗性病害虫の発生を未然に抑えるとともに、農薬の実証試験を通じてより効果の高い農薬の選択に資する。  
総合的病害虫管理技術の開発により、薬剤抵抗性病害虫に対しては抵抗性の回避や、難防除病害虫に対しては代替技術(生物的、物理的、耕種的防除)を導入して被害を防止し、ぎふクリーン農業の持続的な実施に資する。  
また、海外・県外で発生している病害虫の侵入警戒調査により、県内での発生を未然に防ぐ。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率

### ○指標を設定することができない場合の理由

植物防疫法、農薬取締法等に基づき、植物に有害な動植物を駆除し、また、そのまん延を防止して農業生産の安全及び助長を図ることを目的としているため。

### (前年度の取組)

- ・ 事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
- ・ コナジラミ類（トマト）、黒腐病（イチゴ）について総合的防除管理技術を確認し、関係機関に情報提供した。
- ・ ウメ輪紋ウイルスの全国発生状況調査を実施した。

### (前年度の成果)

- ・ 前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
- ・ 総合的防除管理技術は、化学合成農薬の適正使用と代替技術を組み合わせた効率的、効果的な防除対策を進めるための資料となった。
- ・ ウメ輪紋ウイルスは、国の方針により調査のみ実施。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</li> </ul>	
(評価) ○	<p>ぎふクリーン農業の普及推進のためには、農薬の効率的な利用を可能とする総合的病害虫・雑草管理技術の開発が必要である。</p> <p>ウメ輪紋ウイルスについては、感染樹の調査を実施する必要がある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価) ○	<p>ウメ輪紋ウイルスについては、早期発見、緊急防除により最小限の被害にとどまっている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価) ○	<p>ウメ輪紋ウイルス調査は、他の病害虫発生予察調査などと併せて、効率的に実施するよう努めている。</p>

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</li> </ul> <p>県内主要品目の薬剤抵抗性病害虫の発生防止や、難防除病害虫に対する効果的、環境への負荷の少ない防除方法の検討が引き続き必要である。</p> <p>現地で問題となっている病害虫及び雑草等の効果的防除方法について調査が必要である。</p>
---

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</li> </ul> <p>県産農産物の安全性確保と信頼性向上のため、継続的な調査が必要である。</p>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	